

限りある水を「今」考える

若松一中二年 土田日和

「はあ、また今月も水道代高いよ。みんな使
う量ちゃんと考えてね。」

そんな母の声が聞こえてくる。私たちはい
つものように「はい」と返事する。母と父
は、最近水道代にピリピリしているようだ。
たしかに、よく物価高とウのニュースを見る。
私は、水の大切さを知っている。小学生の時
に浄水場に見学に行ったり、環境問題につい
て学んだりしたことでも、今は理解してい
る。そんな学習をした時には毎度思う。

「水を大切にしましょ」

だけど、実際は思うだけだ。

今、改めて水がこの世からなくなったら
どうしようと思う。手洗い、うがいができな
い、お風呂に入れない、皿が洗えない、ご飯
がたけない、そしてなんといつても、水が飲
めない。このライフラインが整っていない日本
には、水はあたりまえにあり、あたりまえに
使うという考えの人がほとんどだと思う。し
かし、この地球には、日本と違っていて、水をあ

たしまえに使えない国だ。山ほどある。毎日、何回も水場までバケツを持っていく。私はいくことをしている子供達もいるという。私は、小学生の時々な子供達のえいぞうを見たことがある。しかし、その時私は「かわいそう」としか感じられなかったことを覚えておる。あたりまえに水を使っている私に「どんな気持ちで運んでいるのか、分かるな」か「たからだ。多分他の人も、かわいそう」とか「つらそう」とかどこか他人事のように感じていると思う。その中でも、友達のこんな感想に違和感を覚えた。

「つらそう、私がかわいそうあげたい。」
その声を聞いた。「え」と私は驚いた。
「本当にかわれるのか」と思った。もちろん相手も思っているのかもしれないけれど、この感想をあの子供達に伝えたりどうなのだろうか。中には「気持ちをお分かってください、嬉しい」と思う子供もいるかもしれないけれど、「こんな大変な仕事を本当にやってくれ

るの」と、逆にいらだちを覚える子供も少なくはないと思っただ。同じ人間でも暮らしている環境がこんなにも違う人間がおおぜいいるのだ。そんな現状をどこか客観的に見て、人もおおぜいいる。

では、私達にできることは、なんだろう。この水という資源にめぐまれて、いる私達だから、そこでできることがあると思う。しかし、その前に意識を変えなければと思う。そこで、改めて母に家族にどんなふうに水を使っているのか聞いてみた。

「どんな時も、水を大切にしているけれど、特にお風呂だね。ずつとシャワーの音が聞こえることが、よくある。それは、本当にムダだから、やめてほしいね。」
と言っていた。私もその節は、思いあたる事ばかりある。寒か？ たりすると、湯ぶねに入るまで、ずつと温まっていたからだ。そういううささいなことから意識を変えていきたい。

次は、取り組みだ。授業で使った千葉県長

生都市で、令和四年度から取り組まれているものから考えた。四木浄水場から給水する水量から適正な水道管の口径を計算し、水道管の耐震化に併えて適正な口径にする工事をしている。今まで口径は四十五センチメートルだったものを、工事は十五センチメートル減らさせた三十センチメートルにして、使う水の量の減少を工夫しているようだ。水道水の調節のためにもこのように工夫が日本、全国に広がるといいと思う。

最後は、家庭でできる工夫だ。水を節水するとともに水を汚さないことも大切だということはおわかっている私達ができることとして生ごみ受けに水切り袋を付ける、鍋や皿の汚れはキッチンペーパーなどで拭き取ってから洗う、天ぷら油などを排水口に流さない、洗剤は必要な量だけ量って使う。必要以上に使わないなどだ。工夫すれば、水を大切に使うことができると思う。

このように、日本は水という資源にめぐま

れこいる。だからこそできることも多いと思
う。

さらに私は、これからは思うだけにとど
まらず、行動にうつせるように意識からし
てかき変えていけるといいたいと思う。

そして、いつか世界中の子供達や大人達が
永に苦しむことなく、平等にきれいで安全な
水を飲むことができ、世界になるようにいま
いいたい。貢献していきたい。